





# 「万博活用戦略」総括レポート

~拡張万博がもたらした挑戦とその軌跡~

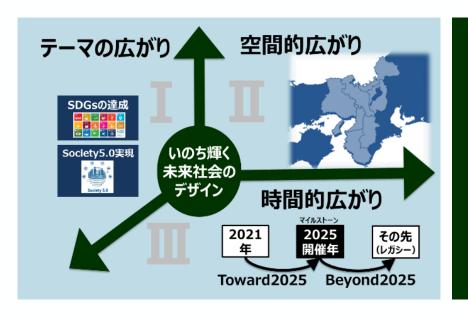
2025年11月20日

近畿経済産業局 2025NEXT関西企画室

# 万博活用戦略とは

関西で開催される世界的なイベントである万博は、地域の特性や優れた産業ポテンシャルを世界にアピールする絶好の機会。この地の利を活かし、関西全体を「パビリオン」として活用することを期待。

当局では「空間」「時間」「テーマ」の拡張を掲げた「拡張万博」という概念を基に、万博の開催パワーを活用して関西の産業振興を推進。この取組を総称して「万博活用戦略」と呼称し様々な活動を展開。



### 空間の拡張

万博会場外で万博と連携した活動を展開しよう

時間の拡張

万博会期の前後も万博的活動を展開しよう

テーマの拡張

自身の活動を万博のテーマと照らしてアピールしよう

# 万博活用戦略にもとづく取組

- ・当局では2019年度以降、万博活用戦略に基づき、企業・自治体・大学等と連携した機運醸成活動のほか、 万博に関連する地域の活動を整理したガイドブック『360°EXPO拡張マップ』を作成。
- ・また、地域一体型オープンファクトリーなど、**万博をマイルストーンとしたプロジェクトを複数展開**。

#### 機運醸成活動

認知度向上や万博への参加促進に向けたセミナー、ワークショップ、イベントを開催**(216件)** 





#### 地域の取組事例の横展開

自治体や地域団体による万博活用の取組事例集『360°EXPO拡張マップ』を作成 (38事例)



#### 万博プロジェクト

万博をマイルストーンとする**12のプロジェクト を展開** 

- <地域産業振興・観光>
  - ①地域一体型オープンファクトリー
- ②関西・共創の森
- ③地域ブランド支援
- ④インバウンド促進・海外企業と関西企業の協業促進
- <国際展開・ビジネス連携>
- ⑤海外企業とのビジネス連携の促進
- <デジタル・先端技術活用>
- ⑥XR活用促進
- ⑦関西eVTOL社会実装推進会議
- <コンテンツ・ものづくり振興>
- ⑧万博を契機とするコンテンツ・ものづくり産業の振興 (Japan Expo Paris in Osaka2025)
- ⑨関西ものづくり新撰2025 事業化支援
- <スタートアップ・新事業創出>
  - ⑩スタートアップ支援(Global Startup EXPO 2025)
- **<知的財産・イノベーション>**
- ⑪知財ビジネスアイデア学牛コンテスト
- く 環境・循環経済>
- ⑪サーキュラーエコノミー実現に向けた取組

# 1. 機運釀成活動

2. 事例展開『360°EXPO拡張マップ』

3. 万博プロジェクト

# 1. 万博の機運醸成に向けた取組

- ・万博の認知度向上と参加者の裾野を広げることを目的に、**セミナー・フォーラムに加えワークショップや各種イベントを開催(全216件)。**
- ・このうち企業・団体向け171件、教育機関向け34件と、産業界と次世代人材双方にアプローチ。

### セミナー・フォーラム(対象: 2019年度~2025年11月20日時点)

2025年の大阪・関西万博の認知度向上のほか、万博の活用方法等について考えるきっかけにしていただくことを目的に、関西で行われている各種セミナーやフォーラムにおいて講演等を実施。

全 185件(企業・団体向け:163件、教育機関向け:22件)

#### **ワークショップ**(対象:2019年度~2025年11月20日時点)

2025年に開催される大阪・関西万博を契機に、未来志向の新たなビジネスを考えるためのワークショップ等を実施。

全 20件(企業・団体向け:8件、教育機関向け:12件)

# 各種イベント (対象:2019年度~2025年11月20日時点)

各種メディア(TV・ラジオ等)への出演や各地でのイベント出展等を通じて大阪・関西 万博の魅力を発信。

#### 全11件

※機運醸成活動を展開した教育機関での万博プロジェクトを次項で紹介

### 【機運醸成の取組例】





敦賀まつり(敦賀市)

わかさ高浜花火大会(高浜町)

福井県嶺南地域からの万博参加を促進すべく、公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会と連携し、嶺南地域の4つのイベントに て大阪・関西万博のPRブースを出展。

#### <参加イベント>

- 1. 小浜市 はまかぜ通り商店街「夜の市」(2025年7月31日)
- 2. 高浜町 わかさ高浜花火大会(2025年8月1日)
- 3. 敦賀市 敦賀まつり (2025年9月2日~4日)
- 4. おおい町 スーパー大火勢(2025年9月6日)

#### 【府県別件数(参考)】

福井県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	その他	
11件	1件	12件	158件	19件	7件	3件	5件	5

# 関大万博プロジェクト

### 取組概要

万博への主体的な活動を促すため、理事長・学長のもとに全学的な部署横断型プロジェクトチームを設置。大阪にある大学としての存在感を示すとともに、学生・生徒にとってかけがえのない経験を提供することを活動方針に掲げ活動を推進。関大万博パートナーである学外企業・団体および学生コミュニティと連携しながら、多彩な事業を展開した。

- ◇各種パビリオン等への出展・催事の実施(TEAM EXPOパビリオン、大阪ヘルスケアパビリオン、電力館、ウーマンズパビリオン、EXPOメッセ「WASSE」、フードコート「大阪のれんめぐり」など)
- ◇学内における独自万博イベントの企画・実施(関大万博フェスタ「巡縁祭」、オープンキャンパス、まちFUNまつりなど)
- ◇学外における「大阪・関西万博」PRイベントへの参画・連携(「EXPO TRAIN 阪急号」、まちごと万博など)
- ◇学生コミュニティ「関大万博部」の設立。関大万博部公式Instagram「万博の歩き方紹介」企画の実施
- ◇万博機運醸成ノベルティグッズおよび商品の開発・配布(大阪ええYOKAN、関大クラフトコーラ&ビールなど)
- ◇「TEAM EXPO 2025」共創パートナー登録および共創チャレンジの創出・推進
- ◇教育カリキュラムとして万博をテーマとする授業科目を開講
- ◇各種ボランティアの派遣(会場ボランティア、大阪まちボランティアなど)
- ◇「EXPO2025デジタルウォレット」におけるオリジナルNFTの製作・配布
- ◇大学キャンパスにおけるミャクミャクキービジュアルNFTの設置・配布 ほか

### 取組スキーム 右図のとおり

# 選大万博プロジェクト パピリオン展示 関大万博Weeks 共創チャレンジ 学生活動推進 部会 関大万博が(ア生コミュニティ)

# 【実施主体】関西大学

<関大万博特設HP> https://www.kansai-u.ac.jp/expo/



# タイムライン

年度	主な取組
2019	「TEAM EXPO 2025」プログラム 共創パートナーに登録
2020	大阪パビリオン推進委員会に参画
2021	関西大学SDGsパートナー制度を制定 共通教養科目「SDGsの実践」内で近畿経済産業局による「SDGs・万博関連」講義を開講(〜2023年度)
2022	「2025大阪・関西万博に向けた協力・推進プロジェクトチーム(関大万博プロジェクト)」を設置 教育機関として唯一となる大阪ヘルスケアパビリオン「リボーンチャレンジ」への参画が決定
2023	「大阪・関西万博」を盛り上げるための公認学生コミュニティ「関大万博部」を設立
2024	共通教養科目「万博に学ぶ未来社会のデザイン」を開講(~2025年度) 19件の「大阪・関西万博」機運醸成イベントを企画・実施
2025	「大阪・関西万博」会期中、 <u>36件</u> の万博内外イベントを企画・実施 (うち <u>18件は「夢洲関大Days」</u> と称する万博会場でのイベント)

# 主な成果

- ・プロジェクト主導による実施・参画イベント数: 62件 (2023年4月~2025年10月)
- ・「TEAM EXPO 2025」共創チャレンジ登録・支援件数: 32件
- ・オリジナルNFTの配布数:12種累計 約18,000 DL
- ・「大阪・関西万博」ボランティアへの学生派遣数:約600人

### 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

- ・学内における独自の万博レガシーイベントの実施
- ・関西大学SDGsパートナーとの産官学連携活動の推進
- ・リボーンチャレンジ出展企業との共同研究等の推進
- ・教育・研究分野におけるSDGs+Beyondの取組み推進

# 1. 機運醸成活動

# 2. 事例展開 『360°EXPO拡張マップ』

3. 万博プロジェクト

# 2. 『360°EXPO拡張マップ』の作成

# ~管内の府県・市町村と連携した先進的な万博活用事例の創出~

- 自治体や地域団体による万博活用の取組事例を収集し、『360°EXPO拡張マップ』としてとりまとめ(38事例)。
- 「誘客」、「取引拡大」、「国際交流」、「Society5.0」、「SDG s 」、「共創イノベーション」の6つの目的別に分類し、 広く発信。

ウエブサイト: https://www.kansai.meti.go.jp/1-2 2025next/360expomap detail.html



6つの目的別に、実際に関西各地で取り組まれている 自治体や地域団体を中心とした「万博活用事例」を紹介



1.国内外からの来訪者の地域への誘客のために



2.地域産品の魅力を発信し、地元企業の取引を拡大させるために



3.他地域や海外との交流の促進のために



4.万博の目標である「Society 5.0」を地域で実現するために



5.万博の目標である「SDGsの 達成」に地域で貢献するために



6.万博のコンセプトを体現する共創イノベーション創出のために

# 360°EXPO拡張マップ掲載プロジェクト一覧(38事例)

目的	実施主体(実施場所)	プロジェクト名
	ALL ARIDA 協議会 2025(和歌山県有田市)	『有田ブランド』の確立(あたり前の風景を地域の誇りに)
	彦根商工会議所(滋賀県彦根市)	世界遺産登録でつながる近隣市町との連携による新たなツアーの造成
	奈良県生駒市 (奈良県生駒市)	まちの魅力を発信!市民PRチーム「いこまち宣伝部」
0	一般社団法人あまがさき観光局 × 株式会社尼漁開発 (兵庫県尼崎市)	「尼崎運河クルーズツアー」~ 新しい魅力を海から伝えます!~
<b>Q</b> :	兵庫県尼崎市 (兵庫県尼崎市)	ピックアップあまがさき〜自分で見つけるフィールドガイド〜
1222	箕面市観光協会(大阪府箕面市)	「オールシーズン×オールタイム」の観光コンテンツの開発
	FactorISM実行委員会(大阪府八尾市)	「FactorISM-アトツギたちの文化祭-」 〜関西地区最大級の地域一体型オープンファクトリーイベント〜
	兵庫県丹波篠山市 (兵庫県丹波篠山市)	丹波篠山国際博 日本の美しい農村、未来へ
	常三郎 × 山川水産加工業協同組合 with行政 (兵庫県三木市×鹿児島県指宿市)	三木金物鉋鰹節削り器(兵庫県三木市)×指宿鰹節(鹿児島県指宿市)コラボ企画 『最高の鰹節をあなたの手で』
<b> </b>	鯖江商工会議所(福井県鯖江市)	MADE FROM MONOZUKURI EXPO Virtual mall J
	滋賀県甲賀市×甲賀市商工会 × 一般社団法人滋賀県調理師会 (滋賀県甲賀市)	コウカEXPO2023~大阪・関西万博に向けた地域資源の魅力発信のイベント~
	滋賀県甲賀市 共催:六古窯日本遺産活用協議会 (滋賀県甲賀市)	日本六古窯サミット2022 in 信楽 「旅する、千年、六古窯」 ~これからの千年の持続可能性~
	兵庫県三木市(兵庫県三木市)	2025大阪・関西万博を見据えたフランスとの地域資源型・国際交流事業
	大阪府藤井寺市(大阪府藤井寺市)	「なかなかのまちなか藤井寺」〜まちなか観光の創造と交流の促進〜
<b>~</b> ₽	大阪府八尾市 × 大阪信用金庫・株式会社カヤック ・株式会社みせるばやお(大阪府八尾市)	まちのコイン「やおやお」 地域活性化プロジェクト
<b>38</b> °	大阪府松原市 (大阪府松原市)	セーフコミュニティ・プロジェクトin松原
	和歌山県有田市(和歌山県有田市)	2025大阪・関西万博をまちと人の成長の機会に
	橿原市観光協会(奈良県橿原市)	スポーツによる国際交流を通じた地域の活性化
	大阪府泉南市 (大阪府泉南市)	子どもたちの国際交流 ~Fly to the world!!~
	兵庫県南あわじ市 (兵庫県南あわじ市)	大阪・関西万博関連事業 ~南あわじ市・トロペア市たまねぎ友好交流~

# 360°EXPO拡張マップ掲載プロジェクト一覧(38事例)

目的	実施主体(実施場所)	プロジェクト名
	大阪府堺市× 南海電鉄・大阪ガス・NTT西日本(運営委員会) (大阪府堺市)	SENBOKUスマートシティコンソーシアム
<b>A</b>	関西医科大学、コガソフトウェア株式会社、大阪府阪南市 (大阪府阪南市)	阪南市から世界へ!「健康無関心層に響く体力・脳力測定システム」の開発 〜well-beingを実感できる社会の実現をめざして〜
	大阪府・大阪市・大阪商工会議所(大阪府)	実証事業推進チーム大阪〜「実証事業都市・大阪」の実現をめざして〜
	京都府舞鶴市(京都府舞鶴市)	ブランド京野菜のスマート栽培による持続可能な産地づくり
	兵庫県姫路市(兵庫県姫路市)	食品ロス削減マッチングサービス「Utteco Katteco by タベスケ」(姫路モデル)
	大阪府八尾市 (大阪府八尾市)	80(やお)アクション $\sim$ みんなで八尾を良くしていく17の目標 (やおSDGs:幸せに 大好きな八尾で 元気に暮らせたら サイコー! ) $\sim$
	奈良県大淀町(奈良県大淀町)	おおよどSDGsプロジェクト
~	兵庫県尼崎市 (兵庫県尼崎市)	兵庫県尼崎市× あまがさきSDGsパートナー× 教育機関
	大阪商工会議所(大阪府大阪市)	女性活躍推進事業
	京都府京丹後市(京都府京丹後市)	丹後万博2023~守ろうで、丹後のええもん~
	兵庫県豊岡市(兵庫県豊岡市)	ジェンダーなど多様性をテーマにした絵本づくりプロジェクト ~子どもたち一人一人の未来につなぐ~
	大阪府東大阪市(大阪府東大阪市)	HANAZONO EXPO〜いのち輝く未来社会にふれてみよう Road to 大阪・関西万博〜
	大阪府枚方市(大阪府枚方市)	ひらかた万博 みんなで創ろう!この街の未来 2025年大阪・関西万博を契機に共創機運の高まりを枚方市へ
	大阪商工会議所(大阪府大阪市)	次世代テックフォーラム
1200	大阪商工会議所(大阪府大阪市)	メタバースビジネス創出プラットフォーム
408	滋賀県湖南市(滋賀県湖南市)	湖南市クラウドファンディング「市民活動プロジェクト応援ファンド」事業
	大阪府茨木市 (大阪府茨木市)	文化・子育て複合施設「おにクル」~ 新しい活動や場を生み出す共創の中心地~
	奈良市× 一般社団法人Next Commons Lab・株式会社 paramita・一般社団法人Local Coop 大和高原 (奈良県奈良市)	Local Coop大和高原プロジェクト〜持続可能な地域共生社会の構築〜

# 代表的な取組(7事例)

# 6つの目的から代表的な7事例を抜粋し、成果と今後の展望等を掲載

<b>9</b>	観光誘客の推進	①世界遺産登録でつながる近隣市町との連携による新たなツアーの造成(滋賀県彦根市)
-	地元企業の取引拡大	②コウカEXPO(滋賀県甲賀市)
8,8	国際交流の推進	③大阪・関西万博を見据えたフランスとの地域資源型・国際交流事業(兵庫県三木市)
4,8	Society5.0 の実現	④SENBOKUスマートシティコンソーシアム(大阪府堺市)
2	SDGsの達成	⑤食品ロス削減マッチングサービス「Utteco Katteco by タベスケ」(兵庫県姫路市)
4001	共創イノベーションの創出	⑥ひらかた万博 ~みんなで創ろう!この街の未来~(大阪府枚方市)
<i>On /</i>		⑦けいはんな万博2025(けいはんな学研都市)

# ①世界遺産登録でつながる近隣市町との連携による新たなツアーの造成(滋賀県彦根市)

### 万博活用の目的(目指すべき姿)

大阪・関西万博の開催を契機に、世界遺産登録を目指す彦根城を中心とした広域観光圏の形成を図り、近隣市町との連携による 新たな観光資源の創出と周遊促進を目指す。

#### 取組概要

1:びわこ万華鏡のポスター・ポストカード制作<世界遺産でつながるまちづくりコンソーシアム> (別紙参照)

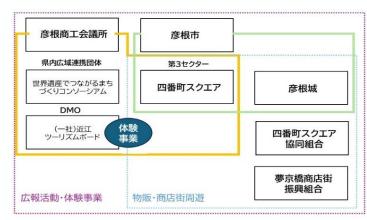
Layered Omiプロジェクトでは、びわ湖を囲む都市の広がりを表現した広域観光イメージを制作した。これに基づき、ポスターやポストカードなどの広報物を作成し、県内の各団体、市内の学校、さらには多様な団体・施設を通じ、万博を機に訪れた方に対して、彦根城を起点とした琵琶湖周辺の観光資源の魅力発信を行った。

2: 殿様の茶事体験 < (一社) 近江ツーリズムボード>

彦根城地域でのVIP体験として、彦根藩主が隠居所として暮らした下屋敷・玄宮楽々園の通常非公開施設にて、幼少期を過ごした井伊直弼公が催した茶会・坐禅を追体験できる企画を実施。①茶事体験(「茶事(「懐石(料理)」「和菓子」「お茶(濃茶・薄茶)」)

- ②座禅体験(御書院にて彦根藩ゆかりの長松院 手塚紀洋住職による坐禅体験
- 3:ミャクミャク×ひこにやん×わるにやんこ将軍コラボグッズ 彦根市および当所が出資する第3セクター「四番町スクエア」 にて彦根で人気のご当地キャラクターとミャクミャクとのコラ ボグッズの販売や、販売施設を含む彦根城周辺を周遊できる販 促を計画。

### 取組スキーム



### 【地域】滋賀県彦根市 【取組主体】彦根商工会議所他関係団体



O DE NER LANG BING KATHERING



# タイムライン

年度	主な取組
2021	県内広域連携団体「世界遺産でつながるまちづくりコン ソーシアム」設立
2022	有名カメラマンにより湖東・湖北地域を撮影 「LAYERED OMI」サイトにて公開
2024	びわこ万華鏡のポスター・ポストカード制作
2025	殿様の茶事体験 関西パビリオン「滋賀ブース」にて彦根城の動画提供

### 主な成果

- 1. びわこ万華鏡のポスター・ポストカードを制作し、年間約5万人が乗船する琵琶湖遊覧「オーミマリン」にて大きくポスターを掲示、予約者にはポストカードを配布した。これにより、乗船者に対して、彦根城周辺を含む周辺地域の観光資源の魅力を効果的にアピールすることができた。
- 2. 市と連携した実証実験として行い、6.8名が歴史体験を堪能した。参加者の満足度も高く、今後はインバウンド客を中心に付加価値の高い 旅行商品として展開する道筋を付けることが出来た。
- 3. 万博開催中は、ミャクミャクとご当地キャラクターのコラボグッズ販売・PRを行い、プレス情報やニュースを見た観光客や修学旅行等団体が万博 視察の前後に立ち寄るなど、集客に大きな影響を与えた。特に3セク施設「ひこにゃんミュジアム」(㈱四番町スクエア)では、4月から9月の期間でグッズ売上が昨年対比20%増加した。

### 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

今後は、これまで実施してきた事業を引き続き、実施するとともに2028年彦根城の世界遺産登録を目標に推進していきたい。

# 【参考】LAYERED OMIについて(滋賀県彦根市)

# 湖東・湖北から広がる、広域連携プロジェクト



湖北・湖東地域から滋賀全県組織へと広がりを見せている広域連携組織(事務局/彦根商工会議所)。現在26の湖北・湖東の観光・商工団体に加え、2023年には大津・草津・守山の商工会議所が加盟。彦根城の世界遺産登録が実現すれば、観光において彦根城だけでなく滋賀、関西、日本と範囲を広げて考えていかねばなりません。

そこで、湖北・湖東地域を始めとしたポテンシャルの高い資源(観光地)をピックアップし、滋賀に広がる歴史や文化、

風景などを写真や動画、セミナー等様々な方法を使い、PRしていくプロジェクトです。

▼動画のまとめ



▼プロモーションサイト















# ②コウカEXPO(滋賀県甲賀市)

### 万博活用の目的(目指すべき姿)

大阪・関西万博を契機とし、地域資源の磨き上げと地元企業・地場産品の認知度向上による取引拡大・ 販路拡大を実現し、地域経済の持続的な成長に繋げる。

また、万博を単なるイベントと捉えず、地域の魅力や後継者不足などの課題を市民、特に小中学生を含む次世代と共有するきっかけにすることで、地域産業への関心を高め、将来的な地域産業の後継者確保と、万博後のレガシー共創に繋がる好循環の創出をめざす。

#### 取組概要

万博を契機として、甲賀市の多様な地域資源(特にものづくり技術、文化、食)の魅力を市民、県内、そして世界に向けて発信する「コウカEXPO」を2年連続で実施した。

1年目(2023年)市民への啓発・認知度向上を重視し、万博のテーマやコンテンツ、まちの豊かな地域資源や地元企業の魅力を知る、体験できるイベントとして開催。

2年目(2024年)多様な体験型コンテンツを中心に(万博機運醸成催事(中島さち子氏を招いたステージ、地域の取り組み紹介、電動マイクロモビリティなど技術の展示)、コウカクラフトフェスタ(市内地場産業の体験)、こうか商工まつり(地域の企業の仕事を体験)等を同時開催。市民が地域資源を深く知るイベントとして開催。

# 取組スキーム



### 【地域】 滋賀県 甲賀市 【取組主体】甲賀市



### タイムライン

年度	主な取組
2021	緋色の里 信楽ブランドプロジェクト(マスタープラン策定)
2022	緋色の里 信楽ブランドプロジェクト(マスタープラン実行)
2023	コウカEXPO2023開催(約1万人来場)、フランスでの展示会出展、 首都圏での大規模展示会出展
2024	<b>コウカEXPO2024開催</b> (約1万人来場)、大阪でのPOPUPショップ開設、クレアパリ展示、サプライヤー協賛(クラゲ館)
2025	守破離イベント、LOCAL JAPAN展、クラゲ館ワークショップ 出展 <b>万博レガシー共創「こうかの遊び場2025」開催</b>

### 主な成果

定量的成果 本市への来訪者が増加基調にある。

H30→R6観光入込み客数(甲賀市全体3,127,600人→3,309,725人)

定性的成果 市民の地域資源への認知度向上と愛着醸成、万博の機運醸成に寄与した。地域産業の後継者として期待する子 どもたちに、地場産業等に関する様々な学びや体験の機会を提供できた。関係者・支援機関との連携を深めた。

### 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

2025年11月には、万博レガシー共創「こうかの遊び2025」イベントを開催した。地域産業の後継者確保など万博レガシー共創の 好循環の創出を図るとともに、万博参画の成果を活かした認知度拡大・販路拡大の継続的な取り組みを進める。またクラゲ館プロ デューサー中島さち子氏らとの関係を継続し、文化芸術、子どもの学びでの連携などに広げる。

14

# 【参考】主な取り組み(滋賀県甲賀市)

# シグネチャーパビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」への参画

# ①水景空間「土と水のカーテン」 へのクレイバー提供



六古窯日本遺産活用協議会の一員として、クラゲ館の水景空間へクレイバー (陶製レンガ)3,205枚を提供した(うち726枚が信楽焼)。

クレイバーの成型・焼成は信楽高等学 校と信楽中学校の生徒が担当した。

大阪万博時に太陽の塔の制作に関わった陶芸作家や地元メーカーも制作に協力した。

# ②陶製イス(トン)の設置



クラゲ館内に、信楽焼の陶製イス「トン」が9個設置された。これらは休憩用だけでなく、叩くと美しい音を奏でる楽器としても使用された。

トンは、信楽高等学校と滋賀県立陶芸の森が共同で制作した。同じ形状のものを市内各地(駅、公共施設など)にも設置した。

万博と地域、伝統と次世代を繋ぐ機会となった。

# ③モニュメント「角命」への 素材採用



クラゲ館地上部に設置されたモニュメ ント「角命」には、甲賀市産木材のタイ ルが採用された。

このモニュメントは910個の正三角形で構成されており、タイル材は滋賀県森林組合(中央事業所土山工場)が材料を支給し、河芳工務店が加工を担った。

地場の素材と先端技術が融合した、魅力的な展示が実現した。

# ③大阪・関西万博を見据えたフランスとの地域資源型・国際交流事業 (兵庫県三木市)

# 万博活用の目的(目指すべき姿)

2025年大阪・関西万博を契機に、フランスとの国際交流を通じて、地域資源やものづくりの魅力、そして次世代を担う高校生の活躍を世界に発信。三木市の存在を広く認知してもらい、交流人口の拡大と地域の活性化につなげることを目指す。

### 取組概要

2020年東京オリンピックでのフランス陸上チームとのホストタウン交流を契機に、持続可能な国際交流のあり方を模索し、以下の3つの取組を展開。

- ① 三木高校とフランス・クロミエ高校による「スーツケースプロジェクト」
- ② 三木金物「肥後守」とフランス人クリエイターによるコラボ商品開発
- ③ フランスのワイナリーが抱える課題を三木金物の技術で解決する連携

### 取組スキーム

市がコネクターとして、各主体の連携を支援。①では両国の高校生が意見交換できるディスカッションの場や第三者評価を得られる場をアレンジし、②では新たな販路拡大に向けた職人とクリエイターのマッチングを調整。③においても、現地ニーズの把握や技術提案の場を設けるなど、各取組の推進に向けた伴走支援を実施。

### 【地域】兵庫県三木市 【取組主体】日本、フランス高校生、事業者



【①スーツケースプロジェクト】

【③ワイナリーとの検討風景】



【②「肥後守」とフランス人クリエイターによるコラボナイフ】

# タイムライン

年度	主な取組
2019	フランス陸上チームホストタウンに決定
2020	コロナによるオリンピック延期
2021	2020東京オリンピック
2022	内閣官房交際交流プログラム調査事業に認定
2023	フランスに渡航し、プロジェクトイメージ共有
2024	フランス農業祭で三木市ブース出展、企画スタート
2025	万博会場でのPR、新商品お披露目

# 主な成果

- ① 高校生同士の交流を通じて、互いの文化や地域資源を学び合うとともに、国際交流を担う人材育成の 基盤が構築。
- ② フランス人クリエイターと連携した新商品(折りたたみナイフ)が開発され、現地代理店との販売交渉が開始。
- ③ ワイナリーの課題に対応する製品(ぶどう収穫ハサミ)の試作が進み、技術連携の可能性が具体化。こうした取組を通じて、地域資源の新たな価値創出と次世代人財の育成が進んでいる。

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

- ① スーツケースプロジェクトを継続し、次世代の国際交流を担う人財育成の場として発展させる。
- ② コラボ商品のOEM展開や新たな事業者との連携による商品開発を推進。
- ③ フランス市場への販路拡大を視野に、現地パートナーとの連携を強化。

# **4SENBOKUスマートシティコンソーシアム(大阪府堺市)**

# 万博活用の目的(目指すべき姿)

泉北二ュータウンは、まちびらきから約60年を迎え、インフラの老朽化や住民の高齢化といった課題に 直面している。これらの課題を解決するため、公民連携のもとICTを活用し、住民の暮らしの質を高める 「LiveSMART」と、暮らしを楽しむ「Play SENBOKU」を実現するための新たな価値を創出し、地域な らではの魅力向上を目指す。

### 取組概要

2022年6月、「SENBOKU New Design」及び「堺スマートシティ戦略」の理念に基づき、堺市・南海 電鉄・大阪ガス・NTT西日本が発起人となり、産業界・大学・住民団体とイコールパートナーでスマート シティを推進する主体として「SENBOKUスマートシティコンソーシアム」を設立。

【会員数:(設立時)会員数102団体 $\Rightarrow$ (2025年7月末時点)169団体に増加】

当該コンソーシアムでは、泉北ニュータウン地域の課題解決に向け、5つのワーキンググループ(WG) を設置し、これまでに39の実証プロジェクトを実施。

さらに、2025年9月には『SENBOKUスマートシティ推進ビジョン』を策定し、2030年に実現したい 姿をKGI・KPIとして数値化するとともに、住民へのウェルビーイング調査等から地域課題を整理し、コ ンソーシアムが取り組むテーマを設定することで、会員との共創による新しいサービスの社会実装と地域 への定着を推進。

# 取組スキーム 右図参照

# タイムライン

年度	主な取組
2022	SENBOKUスマートシティコンソーシアム設立 TEAM EXPO 2025 共創パートナーに登録
2023	AIオンデマンドバス あんしん見守りサポート事業 泉北アバタープロジェクト <sup>※</sup>
2024	堺・せんぼくポケット モビリティハブ「泉北ぷらっと」
2025	SENBOKUスマートシティ推進ビジョンの策定

# 【地域】大阪府堺市 【取組主体】SENBOKUスマートシティコンソーシアム

«SENBOKUスマートシティコンソーシアムがめざす姿»

# Live SMART, Play SENBOKU



«SENBOKUスマートシティコンソーシアムの体制»



# 主な成果

堺アバタープロジェクトでは、泉北ニュータウン内の実証拠点から大阪・関西万博のシグネチャーパビリオン「いのちの未 来」に設置したCGアバターを通じて、来場者に会場案内を行うなど、高齢者をはじめ多くの市民が堺から万博に参加す る機会を提供。

泉北ニュータウン地域の小学校・中学校、商業施設のイベント情報や、行政情報など様々な情報を集約し、配信する 地域特化型の公民連携ポータルアプリ「堺・せんぼくポケット」では、令和7年度末までに大阪府が構築した大阪総合行 政ポータル「マイド・ア・おおさか」とID連携し、「SakaI-D」で様々なサービスを簡単に利用できる環境を構築する予定。

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

2030年の泉北ニュータウン地域でのスマートシティの実現に向けて「交通移動支援サービス」「健康維持・予防支援」 「デジタル連携/安全・安心」のテーマを中心に会員との共創による新しいサービスの社会実装と地域への定着をめざす。17

# ⑤食品ロス削減マッチングサービス「Utteco Katteco by タベスケ」(兵庫県姫路市)

### 万博活用の目的(目指すべき姿)

2030年度までに日本の食品ロス削減目標の達成に向け、全国初となる自治体が運営する食品ロス削減マッチングサービス「Utteco Katteco by タベスケ」の普及啓発を積極的に行い、食品ロス削減実績の向上します。

また、利用者の利便性の向上を図ることも含め、食品ロス削減マッチングサービスを導入する自治体を全国へと広げ、姫路から日本の食品ロス削減目標の達成を図ります。

### 取組概要

食品口ス削減マッチングサービス「Utteco Katteco by タベスケ」は、兵庫県姫路市内の食品関連事業者が消費期限・賞味期限の迫る食品や生産・流通における規格外品など、廃棄される可能性のある食品を通常価格よりも安価で販売する情報を発信し、消費者はそれらの情報をもとに希望商品の注文予約をスマートフォンやパソコンから出来るサービスで、需要と供給をマッチングさせる。

### 取組スキーム



#### 【取組主体】姫路市

#### タペスケ

#### タペスケ

飾磨

#### **冊 パン工房はっくるべりー 阿成店**



はっくるベリー 人気商品セット (冷凍)

660円(定価1100円) 円) 40% OFF

残り個数:12個

あと 22:45:10 で受取終了

商品詳細 / 購入予約

山陽姫路/姫路/砥堀

⊕ ファミリーベーカリーぱんだ



16日焼き上げ 分菓子6+調理

880円 (定価 <del>1670円</del>) 47% OFF

残り個数:3個

あと 22:54:19 で受取終了

商品詳細 / 購入予約

# タイムライン

年度	主な取組		
2020	食品ロス削減マッチングサービス「UttecoKatteco by タベスケ」を導入		
2021	食品ロス削減マッチングサービスを5自治体が導入 TEAM EXPO 2025「共創チャレンジ」に登録		
2022	食品ロス削減マッチングサービスを10自治体が導入		
2023	食品ロス削減マッチングサービスを9自治体が導入		
2024	食品ロス削減マッチングサービスを9自治体が導入		
2025	TEAM EXPO2025共創パートナーとして姫路商工会議所が参加 万博会場内で利用できる食品ロス削減マッチングサービス「万博タベスケ」が導入		

# 主な成果

実績(令和7年9月30日現在)

導入自治体数:29自治体

ユーザー登録数:113,650人

### <u>万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)</u>

引き続き、「Utteco Katteco by タベスケ」の普及啓発を行い、食品 ロス削減実績の向上を図ります。

また、食品ロス削減マッチングサービスの導入自治体を兵庫県内及び全国へ 広げていきます。

# ⑥ひらかた万博 ~ みんなで創ろう!この街の未来 ~ (大阪府枚方市)

### 万博活用の目的(目指すべき姿)

2025年大阪・関西万博の開催を契機として、① 国内外から誘客促進、② 地域経済の活性化、③ まち への愛着醸成 を市民や事業者・大学等との共創の取組で推進

### 取組概要

- ◆ひらかた万博共創プラットフォーム 多様な主体との対話・情報共有の場として設置。参画事業者とともに、特産品の創出や誘客事業での 連携など、共創に向けた対話を推進。
- ◆ひらかた万博共創事業創出補助金 共創による地域経済の活性化の取り組みを支援するため創設した補助金制度。本市の地域資源を活用 した特産品や、参加・体験型イベント、観光ツアー等の新たなコンテンツ創出を支援。
- ◆ひらかた万博パビリオン事業 市内全域をパビリオンに見立て、地域資源を活用して本市への誘客を図るイベント等を「ひらかた万」 博パビリオン事業」として位置づけ、PR協力等を支援。

### 主な成果 ※令和7年10月末時点

- ◆共創プラットフォーム 178団体登録
- ◆補助金を活用した取組6件(予定)
- ◆共創の取り組み等により、枚方市の地域資源を活用した特産品やツアー、体験などの観光コンテンツ 23件
- ◆インらかた万博パビリオン事業 実施件数221件
- ◆ひらかた万博を通じて共創により生まれた特産品や、市の伝統文化・盆踊りなどの市の魅力を発信する イベント(R6,R7)に計11,000人来場。
- ◆「みんなで選ぶ!TEAM EXPO」の「共創パートナー賞」受賞(自治体で唯一)。

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

- ◆ひらかた万博をきっかけに醸成された共創の機運を絶やさず、引き続き多様な主体による共創を促進し、 枚方の魅力向上を図るため、プラットフォームの仕組みや事業者の主体的な活動支援を継続
- ◆万博を契機に交流を深めた海外各国と市内企業や大学等とのビジネスマッチングや国際交流を促進

### 【地域】大阪府枚方市 【取組主体】枚方市、市民、市民団体、企業、大学等













特産品の創出

Πゴマーク



PRイベント

### タイムライン

年

2025

年度	主な取組
2021	・「TEAM EXPO 2025」共創パートナー登録
2022	・ひらかた万博の取組スタート、キャッチコピー決定(公募) ・共創プラットフォーム設置
2023	・ロゴマーク制作、補助金創設
2024	・ひらかた万博PRイベント「きてね、枚方」開催 ・ビジネスマッチングや国際交流に向けた各国との意見交換をスタート

・ひらかた万博PRイベント「またきてね、枚方」開催

・大阪・関西万博「大阪ウィーク」、「LOCAL JAPAN展」出展

19

# ⑦けいはんな万博2025 (けいはんな学研都市)

### 万博活用の目的(目指すべき姿)

けいはんな学研都市では「ポスト万博シティ」としての万博の成果継承を見据え、拡張万博の一環として2025年4月より「けいはんな万博2025」を開催。

2025年大阪・関西万博を契機に、けいはんな学研都市が有する研究開発力や文化資源を活かし、未来社会を体感・共有できるモデル都市を創出する。また、企業・研究機関の更なる集積、スタートアップ支援やPoCフレンドリーな都市形成、国内外の研究者や企業家、住民、学生等が交流する「コモンズ」の創出等の取組により、けいはんな学研都市の研究開発力と認知度の向上を図る。

### 取組概要

「未来社会への貢献〜次世代への解〜」をテーマに、「ロボット・アバター・ICT」「ウェルビーイング」「スタートアップ」「サイエンス&アート」など多様な分野でイベントを展開。また研究機関によるオープンラボや国際会議のほか、大阪・関西万博会場内でもワークショップや展示を実施し、けいはんな学研都市の魅力と先端技術を広く発信した。

### 実施体制

けいはんな学研都市の立地機関や府県、市町、経済団体など73の機関が運営協議会を組織し、住民や学生等も一体となって、都市全体を舞台にした共創型のイベントを展開。

#### 【地域】関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市) 【取組主体】けいはんな万博2025運営協議会(73機関)



(アバターロボットによるパレード)



(ノーベル賞受賞者と学生の対話)



(ウェルビーイングフェス・体験展示)



(けいはんな大学サミット)

# タイムライン

年度	主な取組
2023	「2025年大阪・関西万博アクションプランVer.5」掲載
2024	「けいはんな万博キックオフイベント」をうめきたで開催したほか、 他主体のイベントへの出展等により機運醸成
2025	「けいはんな万博2025」開催 「けいはんな宣言」をまとめ未来社会への貢献を決意

# 主な成果

4月から10月の間に74のイベントが開催され、約200,000人(けいはんな学研都市 161,000人、万博会場39,000人)以上の参加者があった。また、マスメディアにも多数掲載。 その結果、企業や研究機関による先端技術の実証や発信が進み、企業関係者、研究者、学生、地域住民など多様な交流を通じて「ポスト万博シティ」を共創する基盤が形成された。

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

けいはんな学研都市は、研究開発力の向上と社会実装への過程をとおして、人口減少下の日本の経済成長、国力増強の推進力となることにより、健康で、平和で、豊かな素晴らしい未来社会の実現に貢献する。

けいはんな学研都市は、「誰もが幸せに楽しく暮らせる社会」をともに考え、学び、創り上げることにより、ウェルビーイングを体現するモデル都市を目指す。

- 1. 機運醸成活動
- 2. 事例展開 『360°EXPO拡張マップ』
- 3. 万博プロジェクト

# 3. 近畿経済産業局「万博プロジェクト」

- 万博を契機に各施策を着実に進め、次のステージへ発展させる取組を推進

テーマ	プロジェクト名	担当部署
	①地域一体型オープンファクトリー	地域経済部 地域連携推進課
地域産業振興・観光	②関西・共創の森	地域経済部 地域連携推進課
10均/生来)放舆。	③地域ブランド支援	国際部 地域ブランド展開支援室
	④インバウンド促進・海外企業と関西企業の協業促進	国際部 投資交流促進課
国際展開・ビジネス連携	⑤海外企業とのビジネス連携の促進	国際部 国際連携推進室
デジタル・先端技術活用	⑥XR活用促進	産業部 サービス・コンテンツ産業室
プングル・元姉技術店用	⑦関西eVTOL社会実装推進会議	産業部 製造産業課
コンテンツ・ものづくり振興	®万博を契機とするコンテンツ・ものづくり産業の振興 (Japan Expo Paris in Osaka2025)	総務企画部 2025NEXT関西企画室
	⑨関西ものづくり新撰2025 事業化支援	地域経済部 産業技術課
スタートアップ・新事業創出	⑩スタートアップ支援 (Global Startup EXPO 2025)	産業部 創業・経営支援課
知的財産・イノベーション	⑪知財ビジネスアイデア学生コンテスト	地域経済部 知的財産室
環境・循環経済	②サーキュラーエコノミー実現に向けた取組	資源エネルギー環境部 環境・資源循環経済課

# ①地域一体型オープンファクトリー

# 取組概要

2025年大阪・関西万博を見据えて、新たな関西の魅力を発信する手段としての地域一体型オープンファクトリーの意義を整理し、「オープンファクトリーフォーラム」の開催を通して各地のキーパーソンのネットワークを構築。

関西を中心に、全国各地で機運を醸成することで、**万博開催時には約60のオープンファクトリーが全 国各地に誕生**した。

また、地域一体型オープンファクトリーと、大手企業やベンチャー企業といった外部資源との協業可能性を探る共創スキーム「Local X STAGE」を立ち上げ、万博後も続く「産業コミュニティ」を確立した。

実施主体 近畿経済産業局、全国各地のオープンファクトリー実行団体

**実施期間** 2019年~

担当:近畿経済産業局 地域連携推進課

電話:06-6966-6013



「関西オープンファクトリーフォーラム」の様子

# タイムライン

年度	主な取組	
2019	・『関西企業フロントラインNEXT』発表 ・第1回オープンファクトリーフォーラム開催	
2020	・『KANSAI OPEN FACTORY REPORT2021 <関西版>』発行	
2021	・『KANSAI OPEN FACTORY REPORT2022 <関西版>』発行 ・大企業を巻き込んだ「テクニカル・ビジット」の試行	
2022	・『OPEN FACTORY REPORT1.0 <全国版>』発行 <u>・Team EXPO共創チャレンジ登録</u>	
2023	・『OPEN FACTORY REPORT2.0 <全国版> 』発行 ・Local X Forumの全国開催(8地域)	
2024	・Local X STAGE2024の実証 ・Co-Design Challenge2024	
2025	<ul><li>・Local X STAGE2025の実証(テーマウィークコネクト)</li><li>・万博内でのオープンファクトリーフォーラム開催</li><li>・「KOUGET COMMONS」プロジェクトスタート</li></ul>	

### 主な成果(詳細次項)

- ・全国各地におけるオープンファクトリーイベントの誕生(2019年25箇所)→ 2025年65箇所)<u>※年初値</u>
- ・大阪・関西万博における中小企業が中心となったプロジェクト「Co-Design Challenge 2024」への協力
- ・大手企業やベンチャー企業との共創スキーム「Local X STAGE」の設立
- ・全国の工芸産地が連携し地方創生を目指す民間発のプロジェクト「KOGEI COMMONS」設立

### 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

#### 【地方創生】

地方創生の観点からオープンファクトリーの取組を全国に広げるため、自治体や実施主体への支援を継続。令和7年6月13日に閣議決定された「地方創生2.0基本構想」においても「オープンファクトリー」が記載されており、国の政策と連動した推進を図る。

#### 【イノベーション】

万博を契機に形成された産業コミュニティを基盤に、地域の大企業と連携したオープンイノベーション創出事業を展開。地域資源と外部企業の知見を掛け合わせ、新たな製品・サービスの創出に繋がるエコシステムの形成を目指す。 23

# 【参考】地域一体型オープンファクトリーの成果(時間的広がり)

2019年度より「<u>地域一体型オープンファクトリー事業</u>」に取り組んできたことによって、**関西のみならず国内全域での取組の活性化を実現。(全国事例:OPENFACTORY REPORT)** 万博本体においても、中小企業が中心となったプロジェクト「<u>Co-Design Challenge2024</u>」や、全国で躍動するオープンファクトリーのキープレイヤーが集う「<u>オープンファクトリー</u> フォーラム」の大阪パビリオンでの実現に繋がった。

また**万博後も、日本のものづくり産地に新たな循環を生むプロジェクト「<u>KOGEI COMMONS</u>」(一般社団法人SOE、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ、一般社団法人関西イ ノベーションセンター)が2025年9月にスタート。**伝統工芸、産業工芸、美術工芸など、それぞれの地域が持つ工芸の知識や技術を交わらせ、互いの課題や知見を交換し、そこで得たノ ウハウを自地域へ持ち帰ることで、新たな展開を生み出ず"学び合いの場が継続するといった**「時間的な広がり」**に繋がっている。

2019年

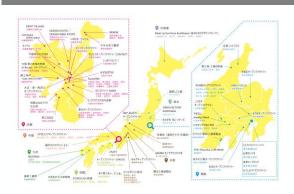
Toward2025

2025年

Beyond2025

未来

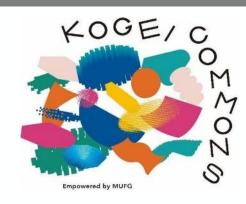
#### 地域一体型オープンファクトリー事業



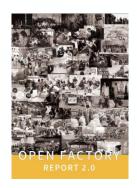
#### Co-Design Challenge2024 (Future Life Village )



#### **KOGEI COMMONS Empowered by MUFG**



#### **OPENFACTORY REPORT**





#### オープンファクトリーフォーラム(大阪パビリオン)



**OPENFACTORY REPORT Beyond EXPO** 

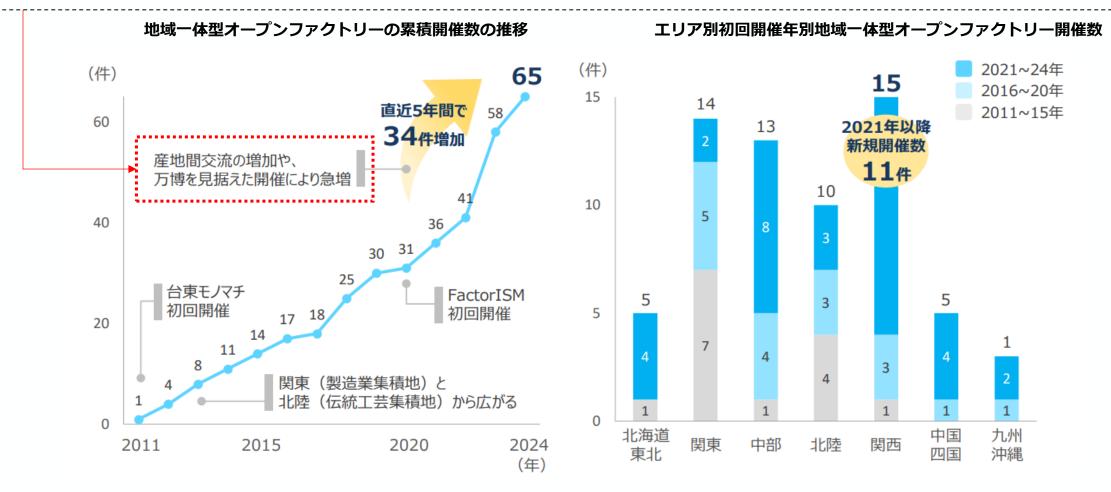
2026年3月公表予定

# 【参考】地域一体型オープンファクトリーの成果(空間的広がり)

地域におけるオープンイノベーション創出の手段として地域一体型オープンファクトリーの活性化に取り組むと同時に、**取組自体を会場外のパビリオンと見立て、万博開催時に立ち寄る** 「ビジネス・バイウェイ」先として可視化(OPENFACTORY REPORT)することで、各地の機運を醸成。

また、関西はもちろん、国内各地においても他の地域経済産業局と連携し「オープンファクトリーフォーラム」<u>(産地間交流)</u>を実施することで、新たな地域一体型オープンファクト リー創出のきっかけを創出してきた。

また、大阪・関西万博における中小企業が中心となったプロジェクト「Co-Design Challenge2024」とも連携し、各地の取組をさらに推進。国内に広がる「空間的な広がり」に繋がっている。



Click here!

株式会社日本政策投資銀行関西支店:地域一体型オープンファクトリーの可能性 〜地場産業の新たなビジネスチャンスの創出と持続可能な発展〜(2025年3月)より引用

# ②関西・共創の森

# 取組概要

関西に所在する国の支援機関が一体となり、社会課題解決に向けたイノベーション創出を支援するために 創設したコミュニティ活動。

「プレ未来社会の実験場」をコンセプトに、大企業とスタートアップ、中堅・中小企業が交わり、共創を促進するイベント「DAYS」を開催。大企業が所有する共創空間を舞台に、当該企業の事業領域と"未来"を掛け合わせたせたテーマでミートアップイベントを実施し、万博の機運醸成へと繋げた。

# 実施体制

近畿経済産業局、工業所有権情報・研修館(INPIT)近畿統括本部、産業技術総合研究所(AIST)関西センター製品評価技術基盤機構(NITE)、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)NEDOデスク、

日本貿易振興機構(JETRO)大阪本部、中小企業基盤整備機構(SMRJ)近畿本部、科学技術振興機構(JST)、

日本医療研究開発機構(AMED)西日本統括部

### **実施期間** 2020年~

# <u>タイムライン</u>

年度	主な取組
2020	・「関西・共創の森」発足
2021	・実務担当者会議を通し知見共有をはじめとした関係性構築 ・共創チャレンジ「社会課題解決を目指すオープンイノベー ション促進プロジェクト」登録
2022	・「関西・共創の森DAYS」スタート
2023	・「関西・共創の森DAYS」の継続実施 ・DAYS協力大企業のネットワーク化
2024	<ul><li>・「関西・共創の森2nd DAYS」への進化</li><li>・共創チャレンジ「未来エネルギー共創プロジェクト」登録</li></ul>
2025	<ul> <li>・「関西・共創の森3rd DAYS」への進化</li> <li>・DNPとの連携「Extra DAYS」の実施</li> <li>・特許庁「知財のチカラ」におけるステージプログラム実施</li> </ul>

# 主な成果(詳細次項)

- ・「DAYS」を機会とした管内大企業とのネットワーク構築
- ・「DAYS」を機会とした様々な企業マッチングの実現 これらに加えて、大阪・関西万博会場内において以下のイベントを開催。
- ・EXPOサロンにおける「EXTRA DAYS」開催 (2025年8月28日)
- ・Future Life Village における展示・ステージの実現 (2025年9月25日、10月5日、9日)
- 「関西・共創の森CHIZAI Forum」開催(2025年10月7日、8日)

#### 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

#### 関西・共創の森の継続実施(予定)

組織間の覚書においては万博開催年度(2025年度)までの取組としていたが、大企業とのネット ワークをはじめ、コミュニティを通しての活動に各機関意義を見いだしていることから、2026年度 以降も新たな発展的テーマを設定して、継続実施を予定している。(テーマは検討中) 26

担当:近畿経済産業局 地域連携推進課

電話:06-6966-6013



# 【参考】関西・共創の森の成果【時間的広がり】

共創空間を持つ地域の大企業と連携し、「プレ未来社会の実験場」と銘打って企画した「関西・共創の森『DAYS』」は2022年に初開催。共に事業を作り上げる大企業の数も年々増加し、2024年には共創チャレンジ「未来エネルギー共創プロジェクト」を登録。2025年万博会場内においても大日本印刷株式会社と連携した出展に至った。

また関西・共創の森参画機関同士の連携も深め、知的財産権に注目した「CHIZAI Forum」もEXPOメッセ会場内で開催。

なお、本事業は2025年度末までを事業期間としていたが、万博を機会として培ってきた関係性を活かし、「関西・共創の森」の継続のあり方を検討中。

万博後もDAYSを手段とした大企業との連携が予定されており、万博後においても続く「時間的な広がり」に繋がっている。

2020年

Toward2025

2025年

Beyond2025

未来

関西・共創の森 発足



「DAYS」の開催

開催企業(順不同) ※共創空間名は開催時名称

- ・ナレッジキャピタル 「The Lab.」
- ・フクシマガリレイ株式会社「MILAB(ミラボ)」
- ・株式会社オカムラ「Open Innovation Biotope "bee"」 ・大和ハウス工業株式会社「コトクリエ」
- ・コニカミノルタ株式会社「Innovation Garden OSAKA Center」
- ・積水化学工業株式会社「水無瀬イノベーションセンター」
- ・大日本印刷株式会社 「P&I Lab. OSAKA」
- ・サントリーホールディングス株式会社「サントリーワールドリサーチセンター」
- ・さくらインターネット株式会社「Blooming Camp」
- ・西尾レントオール株式会社「N-LOUNGE」
- ・株式会社島津製作所 「基盤技術研究所(みらい共創ラボ)」
- ・日華化学株式会社「NICCAイノベーションセンター」
- ・阪急阪神不動産株式会社「NORIBA10 umeda」

未来エネルギー共創プロジェクト(Future Life Village)



CHIZAI Forum (EXPOメッセ)



関西・共創の森 延長 2026年3月詳細決定予定



「DAYS」の継続開催

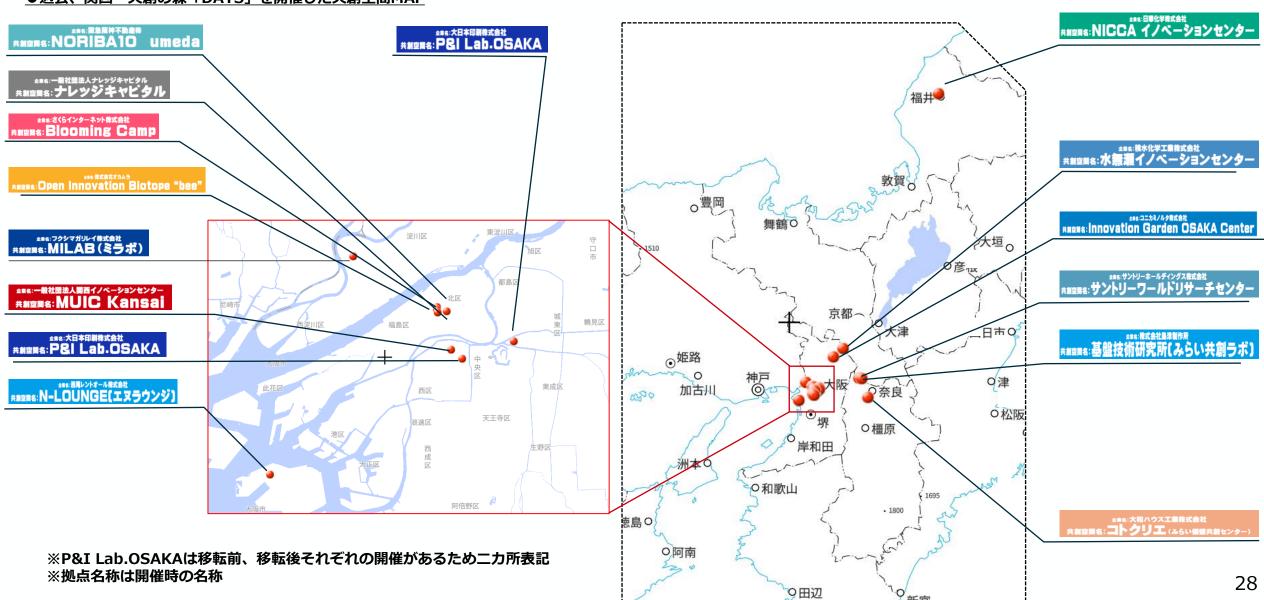


開催予定及び開催実績 (近畿経済産業局HP)

# 【参考】関西・共創の森の成果【空間的広がり】

大企業の持つ共創空間を活かした「DAYS」を、**「プレ未来社会の実験場」と位置づけることで、万博会場外へ機運醸成に繋げ、「空間的な広がり」へ**。

●過去、関西・共創の森「DAYS」を開催した共創空間MAP



# ③地域ブランド支援

# 取組概要

地域ブランドの高付加価値化と自立的な好循環によるブランド形成を目指し、「地域ブランドエコシステム」の構築に向けた活動を開始。2020年には近畿経済産業局内に地域ブランド展開支援室を設置し、地域ブランドを選定。2020年度に10ブランドを選定し、翌年度には12ブランドへと拡充した。

大阪・関西万博を見据え、関西地域ブランドの磨き上げと魅力発信をミッションとし、各ブランドの特性を踏まえながら①認知度向上、②販路拡大、③誘客を柱に、地域や有力企業群の高付加価値化を推進してきた。

12ブランドが放つ文化的・感性的価値をもって、世代を超え、日本を超えて魅了することをゴールに、発信機会の提供、個社の伴走支援、コミュニティづくりを実施中。

実施主体 近畿経済産業局および各産地の自治体、組合、協会などの実行団体

実施期間 2020-2025年度

担当:近畿経済産業局 地域ブランド展開支援室

電話:06-6966-6054





【12ブランド+1マップ】

【ブランド振興事例集】



【大阪・関西万博イベント「守・破・離」】

# タイムライン

年度	主な取組
2020	関西のモデルとなりうる地域ブランド10を選定 検討を実施し、産地の磨き上げ支援
2021	丹後織物、播州織を追加し、12ブランドに。
2022	地域ブランドの中の8個社の伴走支援開始(基盤作り) 在京都フランス総領事館でのマルシェ開催
2023	関西地域ブランドプロモーション動画制作 フランスでの現地プロモーション実施(認知・販路拡大)
2024	地域ブランド振興の取組事例集作成 関西領事館フォーラムメンバー向けPR(誘客) 関西国際空港内でテーマ別PR(誘客)
2025	プラス1伴走支援事業の実施 万博会場内で12ブランドPRと共創を目的とした「守・破・離」 イベント開催

# 主な成果

- ・「関西地域12ブランド」としての国・県・市町・事業者間の一体感を持った関係構築。
- 地域ブランドの認知度向上や地域への来訪者数増加。
- ・ 地域ブランド間の連携による新製品発表及び販売(成功事例2件)
- ・ 万博会場内イベントとして「守・破・離」〜関西の伝統工芸等の未来への飛翔〜の開催 (来場者数 総計5,941名/ 掲載メディア数6社

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

大阪・関西万博イベントでの成功体験を分析し、12ブランド事業の総括を行うとともに、更なる「地域ブランドエコシステム」の確立に向けた取組を行う。

# ④インバウンド促進・海外企業と関西企業の協業促進

担当:近畿経済産業局 投資交流促進課

電話: 06-6966-6033

# 取組概要

万博開催時の増加が期待されるインバウンド、特にビジネス目的の訪日客に対し、関西の産業 観光施設や地方への広域周遊、地域企業との交流を促進することで、地域経済の活性化、地域企 業と海外企業とのビジネス創出に繋げる。

また、万博開催テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に沿った、訪日客向けの特色ある取 組を行う事業者を発掘し、万博開催の機運醸成とさらなるインバウンドの促進を図る。

#### <具体的取組>

- ①関西の見学可能な産業施設ガイド…関西地域の産業関連施設約300件の情報を当局WEBサイトで紹介。
- ②関西領事館フォーラム・ツアー…総領事館や海外経済機関を対象に会合、ツアー、情報交換会を開催。
- ③東南アジア旅行会社対象ファムトリップ…タイ・マレーシアなどの旅行会社を関西に招き、産業観光施設や 広域地域を視察。
- ④はなやかKANSAI魅力アップアワード…訪日客の取り込みに係る優れた取組を発掘、表彰。
- (5) 英国テムズバレー商工会議所(TVCC)…関西進出に関心のある英国企業と関西企業とのビジネス交流を支援。

実施主体 近畿経済産業局(①~⑤)、関西領事館フォーラム(②)、はなやかKANSAI魅力 アップフォーラム(④)、英国テムズバレー商工会議所(TVCC)(⑤)

**実施期間** 2023年~







③タイ旅行会社ファムトリップ (嶺南ツアー)

⑤英国テムズバレー商工会議所テックツアー

# タイムライン

年度	主な取組
2023	・関西の産業観光施設コンテンツ情報の紹介セミナーをタイ、 マレーシア、インドネシアで開催(③)
2024	・産業施設ガイドのリニューアル、SNS発信(①) ・関西領事館ツアーを福井県嶺南地域で実施(②) ・タイ、マレーシアの有力旅行会社を関西の産業観光施設へ 招へい(③) ・第7回はなかやアワード受賞者の選定(④) ・英国で万博PR及び関西投資プロモーション実施(⑤)
2025	・はなやかアワード受賞者による万博出展(④) ・TVCCトレードミッション、テックツアー実施(⑤)

# 主な成果

- ①ガイド掲載情報12件を英語で新規追加。また、海外ビジネスに関心を持つ施設17件を「大阪海外ビジネスワン ストップ窓口へ紹介。
- ②「エネルギー・食・自然」をテーマに、嶺南地域の特色を関西の在外公館へ紹介。(参加国・地域 7件)
- ③現地旅行会社が産業観光施設を組み込んだ旅行商品を造成(タイ15件、マレーシア16件)
- ④**アワード受賞事業者6者**が万博博会場内PRブースに出展
- ⑤英国から7者9名がテックツアーに参加。

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

訪日ビジネス客の受入が可能な産業施設の発掘や情報発信を拡充し、地域企業との交流の創出や

海外企業との協業に繋げる仕掛け作りを継続して実施する。

# 【参考】東南アジア旅行会社対象ファムトリップ

# 2023年度

タイやマレーシアの旅行業協会と連携し、現地旅行会 社を関西に招聘。体験型産業施設を体験して、顧客 へのPR方法を学んでもらう機会を提供。

2024年1月 マレーシアから10名(6泊7日) 2024年2月 タイから9名(6泊7日)



抹茶アート体験 (京都府和東町)



紙漉き体験 (福井県越前市)



握り墨体験 (奈良県奈良市)

# (実績) 旅行商品になった施設 タイN=3、マレーシアN=5

※2025年1月調査

	タイ	マレーシア
京都和東町 茶畑	2	4
錦光園 にぎり墨体験	0	1
楽入陶房 壺中庵	1	2
黒壁スクエア・長浜曳山	1	3
長浜 盆梅展鑑賞	0	2
越前和紙の里	1	1
タケフナイフビレッジ	0	3
合計	5	16

# 2024年度

タイ旅行会社を若狭路地域へ招へいし、観光コンテンツの体験 や視察等を通じて、タイからの誘客と広域周遊を図る。 2024年12月 タイから3名(2泊3日)



#### (実績)旅行商品例(万博商品)

※NSTravel社 2025年6月法人顧客向け商品



1日目 神戸市、明石海峡

大橋、姫路城

2日目 ダイキン工場視察

3日目 大阪・関西万博

4日目 USJ、道頓堀観光

5日目 大阪城、黒門市場、

りんくう

#### 旅行商品になった施設

※2025年9月調査 (タイC社のみ2025年4月調査) タイN=3

	タイ	タイ	タイ
	A社	B社※	C社
大阪・関西万博	1	1	1
天橋立	1	1	1
熊川宿	1	_	_
レインボーライン山頂 公園	1	_	_
氣比神宮	_	_	2
合計			10

※タイB社は、大阪・関西万博を含むインセンティブ旅行 商品を70件、天橋立を含む同商品を30件販売した

# ⑤海外企業とのビジネス連携の促進

# 取組概要

大阪・関西万博を契機に来日する海外ビジネスミッションからのビジネス相談に迅速かつ適切に対応する ための「大阪海外ビジネスワンストップ窓口」を開設。本窓口と連携しながら、海外展開を志向する関西の 中堅・中小企業のユニークな製品・サービスを取り纏めた「The Kansai Companies Profile」(111社掲 載)を活用し、海外とのビジネス機会を創出。

さらに、具体的な商談機能を持つ中小機構のビジネスマッチングサイト J-GoodTech (ジェグテック) 内 に、The Kansai Companies Profile 掲載企業が持つ優れた製品やサービスを国内外に向けて発信する、大 阪・関西万博特設ビジネスマッチングサイト「中小機構・近畿経済産業局 マッチングコーナー」を開設し (56社掲載)、個別商談の機会を創出。

また、関西の中堅・中小企業の海外展開における課題別のソリューション提供の場を作ることを目的とし た「関西企業のグローバル化支援セミナー」シリーズ(全3回)を実施。

# 実施体制

#### 「大阪海外ビジネスワンストップ窓口| 構成機関:

大阪府、大阪市、ジェトロ大阪本部、大阪商工会議所、関西経済連合会、大阪産業局、中小企業近畿本部、 関西経済同友会、近畿経済産業局(計9機関)

# 実施期間

大阪海外ビジネスワンストップ窓口:2024年4月~2026年3月

The Kansai Companies Profile: 2024年3月~

担当:近畿経済産業局 国際連携推進室

電話: 06-6966-6031



▲セミナー

▲The Kansai Companies Profile



▲ビジネスミッション

Lypo Matching J-GcodTech Business Matching with Innovative SMEs in the Kansai Region ▲J-GoodTech特設サイト

# 主な成果

- ■大阪海外ビジネスワンストップ窓口への相談件数実績(2025年7月末時点)
- → 総問合せ数: 526件

(内訳) 支援受付件数:175件、構成団体個別対応報告件数:197件、 その他(出張相談ブースでの口頭相談を含む):154件

- ■中小機構・近畿経済産業局 マッチングコーナーの実績(2025年10月末時点)
- →総問合せ数:2,054件 商談調整件数:117件 商談実施件数:80件

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

万博期間中に構築した海外機関等とのネットワークを活用して、The Kansai Companies Profile 掲載企業を積 極的に発信するとともに、引き続き中小機構のJ-GoodTech と連携して海外とのビジネスマッチングの機会を拡充する。32

# タイムライン

年度	取組内容
2023	・関西の中堅・中小企業を対象に、海外展開支援に関する ニーズ調査を実施
2024	・大阪海外ビジネスワンストップ窓口開設 ・「The Kansai Companies Profile」 公表 ・J-GoodTech「中小機構・近畿経済産業局 マッチング コーナー」の開設
2025	・関西企業のグローバル化支援セミナー開催 ・海外企業等とのビジネスマッチングの実施

# ⑥XR活用促進

### 取組概要

大阪・関西万博やバーチャル万博を契機とするAR(拡張現実)やVR(仮想現実)などのXR技 術を活用した取組の広がりは、近畿のコンテンツ事業者にとって万博参画の絶好の機会であり、 XRコンテンツ制作需要が高まる重要な機会となる。

こうした背景を踏まえ、国内外の受注獲得に向け「近畿XRコンテンツ制作企業集」 版・英語版)を作成。事業者の強みや得意分野、実績、作品事例等を紹介することで、万博に関 わる企業の新規取引や自治体の円滑な調達に寄与し、また、万博におけるXRコンテンツの充実に 貢献した。

さらに、XRを活用して社会課題の解決に取り組む企業の事例や、万博を契機にXRが広がる様子 を、イベントやnoteを通じて積極的な周知・広報を実施。

これらの取組により「XRやメタバースがよりよい社会に寄与する」という認知を高め、XRの価 値向上と近畿への投資呼び込みを促し、XRの社会実装に向けた自立的な好循環の創出を目指す。

実施主体 近畿経済産業局

実施期間 2023年10月~ 担当:近畿経済産業局 サービス・コンテンツ産業室

電話:06-6966-6053



XR Kaigi Hub in 大阪にて2025年日本

国際博覧会協会と共同でバーチャル万博を周知



Kansai XR EXPO

「Kansai XR EXPO」XR×社会課題× 万博 -近未来技術が導くwell-being-

ビジネス/技術アイデアコンテスト (後援)

# 主な成果

大阪・関西万博におけるXR関係のコンテンツ制作業務を、「近畿XRコンテンツ制作企業集」掲載企業が受注し、XR関 係の投資の呼び込みを実現。

また、万博催事「ビジネス/技術アイデアコンテスト」(主催:日本弁理十会)へのXR企業4社の出展を支援し、学生 等にXR技術の体験機会を提供。さらに「XR Kaigi Hub in 大阪」で2025年日本国際博覧会協会と共同でバーチャル 万博を周知するなど、万博会場内外でXRコンテンツに触れる機会を創出し、XRの社会実装に向けた機運醸成を実施。

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

XRに関する普及啓発活動を続け、大阪・関西万博を契機に醸成された「XR技術を活用し た社会課題解決への機運」を継続。これにより、XRの社会実装をさらに進展させ、地域産 33 業の競争力強化と新たなビジネス創出につなげることを目指す。

# タイムライン

年度	主な取組
2023	<ul><li>「近畿XRコンテンツ制作企業集」作成</li><li>XR/メタバース体験型ネットワーキングセミナー 「近畿 XR企業と創る未来社会~EXPO2025を見据えて~」開催</li></ul>
2024	<ul> <li>KIZASHI「XRを活用した社会課題解決」公表</li> <li>『「Kansai XR EXPO」XR×社会課題×万博 -近未来技術が導くwell-being-』開催</li> </ul>
2025	<ul><li>XR Kaigi Hub in 大阪バーチャル万博出展</li><li>ビジネス/技術アイデアコンテスト後援</li><li>noteシリーズ: XRが拓く未来社会~万博で見えた可能性~</li></ul>

# ⑦関西eVTOL社会実装推進会議

# 取組概要

近畿経済産業局では、関西における次世代空モビリティの社会実装を目指した取組を加速する ため、最新動向の把握に加え、関係府県が連携して取組状況を共有し、共通課題の解決を図る 場として「関西eVTOL社会実装推進会議」を設置。

今後の社会実装に向けては官民の連携が不可欠であることから、重要なステークホルダーであ る基礎自治体に対し、次世代空モビリティに関する理解を促進。さらに、府県と連携したヒア リング等を通じて、導入意向を有する地域や自治体の現状や課題を把握する。こうした取組に 加え、当会議の関係者による社会実装に向けた検討を通じて、関西広域での商用飛行の実現を 目指す。

実施主体 近畿経済産業局

(構成メンバー:経済産業省、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)

**実施期間** 2024年1月~

扫当: 近畿経済産業局 製造産業課

電話:06-6966-6022



(https://www.meti.go.jp/policy/mono info service/mono/robot/pdf/aam in japan jpn.pdf)

# タイムライン

年度	主な取組
2023	• 会議体発足。第1回会議開催。
2024	<ul> <li>第2回〜第4回会議開催。</li> <li>基礎自治体を対象としたアンケートやオンラインセミナーを開催。</li> <li>関西の観光分野における次世代空モビリティビジネスの地域ポテンシャルの調査を実施。</li> </ul>
2025	<ul><li>第5回会議開催。</li><li>基礎自治体を対象としたオンラインセミナーを開催。</li><li>管内府県各地でリアルのセミナーを開催。</li></ul>

# 主な成果

2024年度から2025年度にかけてオンラインセミナー等を実施し、39市町が参加。基礎自治体におけ る理解促進を目的とした取組を継続的に展開中。2025年6月には、関西で想定される次世代空モビリ ティの広域的な運航ルートや離着陸場候補地の提案と、事業可能性評価をまとめたレポートを発表。

### 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

2020年代後半を目途に、関西で国内初となる次世代空モビリティ「空飛ぶクルマ」の商用運航実現を 目指し、本推進会議のメンバーと連携した基礎自治体への働きかけを継続する。

また、2025年9月に地域主導の協議会を発足させた豊岡市など、社会実装に向けた先行的な基礎 自治体の動きも見られる。今後も府県・関西経済界と連携して、こうした先行事例の波及や理解促進 を図るとともに、関西広域での運航ネットワーク構築へと繋げていく。 34

# ⑧万博を契機とするコンテンツ・ものづくり産業の振興

# (Japan Expo Paris in Osaka2025の開催)

# 取組概要

マンガ、アニメ、音楽などのポップカルチャーをはじめとする「コンテンツ」、そして伝統産業や地域ブランドなど、日本が長年培ってきた「ものづくり」等のクールジャパンの魅力を国内外に発信し、世界に通じる新たな価値や可能性を見出すため、フランスで25年間にわたり日本文化を発信し続けてきた「Japan Expo」と連携し、大阪・関西万博会場(EXPOメッセ・EXPOアリーナ)において「Japan Expo Paris in Osaka2025」を開催。

EXPOメッセでは、展示ブースやステージイベントを通じて、コンテンツやものづくり製品のテストマーケティングやプロモーションを実施。また、EXPOアリーナでは、海外進出を目指すアーティストから既に海外で広く認知されているアーティストまで、多ジャンルのアーティストによるパフォーマンスを展開。

本事業を通じて、海外との文化的共生や国際市場での競争力向上による持続可能な経済発展 を目指す。

実施主体 Japan Expo Paris in Osaka 実行委員会、近畿経済産業局

実施期間 2025年4月26日、27日

担当:近畿経済産業局 2025NEXT関西企画室

電話:06-6966-6003





(EXPOメッセ)





(EXPOアリーナ)

# タイムライン

年度	取組内容
2023	2025年大阪・関西万博アクションプランver5掲載
2024	Japan Expo Paris in Osaka2025開催発表
2025	Japan Expo Paris in Osaka2025開催

### 主な成果

当該事業に参画(出演、出展)したコンテンツ提供者やものづくり企業にとって、万博という国内外の来場者との直接的な接点を通じて、製品やコンテンツの魅力を検証し、今後のマーケティングやプロモーション戦略の構築に活かす知見を得ることができた。

【イベント来場者】65,897人

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

本事業への参画を契機に、より多くのコンテンツや日本製品が海外に進出していくことを目指し、当該事業に参画した企業・アーティストの海外展開に向けた取組を支援していく。

# 【参考】Japan Expo Paris in Osaka(JEPO)出展者の声

# 伊東電機株式会社

所在地: 兵庫県加西市朝妻町1146-2 HP: https://www.itohdenki.co.ip/

#### 万博への参加がもたらした意義

パワーモーラ(搬送用ローラ)を扱う当社にとって、普段出展している業界展示会と は異なる客層が想定されるため、展示内容の検討には特別な工夫が求められた。会長自 らがスケッチを描きながら展示内容の構成を練り、自社キャラクターを登場させること でエンタメ性を加えた展示を実現。結果、二日間で660人がブースを訪れ、ゲーム感覚 で体験できる展示は来場者から好評を得た。

#### 万博が生んだスピードと効果

従来は秋の展示会に向けて技術開発を進めていくが、今回は4月という明確な目標が できたため、開発のスピードを加速させるきっかけとなった。また、様々な展示会で 「万博会場で発信した技術」としてPRでき、世界に先駆けた最新技術を広く紹介する 機会となった。JEPOへの出展は、単なるイベント参加にとどまらず、自社製品のマー ケティング活動にも大きな影響を与えたと感じている。

#### 学びと社内変革

当社にとって、BtoC向けイベントへの参加は初の試みであり、見せ方に悩む場面も あったが、普段接することの少ない一般消費者との関わりは新鮮であった。また、そう いった一般消費者からの反応から学びを得たいという社員がJEPOを機に増え、社員の 意識改革にもつながった。

#### 未来への挑戦

今回得た経験は、当社のプロモーション戦略において大きな財産である。「世界的な イベントに参加できたことは、自分たちのステータス向上にもつながった」この自信を 胸に、今後は当社の海外拠点も活用しながら、自社の技術を世界に発信していきたい。





Japan Expo Paris in Osakaで展示したデモ機

# 斎藤塗料株式会社

所在地:大阪市淀川区三津屋北3丁目2-4 HP: https://www.saito-paint.co.jp/ja/

#### 万博への参加がもたらした意義

JEPOには、ホビーやコスプレ用品等に使えるBtoC向け塗料商品「ウレヒーロー」を 出展した。ジャパンポップカルチャーのイベントだからこそ、コスプレ用品など柔軟 素材にも対応できる自社商品の魅力を知ってもらえる機会と考え、参加を決意した。 新聞に取り上げられ、参加した社員からも好評の声が寄せられるなど、会社にとって 有意義な機会となった。

#### サブカルチャー分野への進出

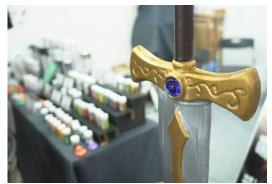
当社は主にPCやカメラ、産業機械向けの塗料を生産している。一方、ゴムなど柔軟 素材には専用の塗料が必要であるが、今回出展した「ウレヒーロー」は従来品と異な り、伸縮性や密着力、撥水性を兼ね備えている。自社SNSでPRを行ったところ、フィ ギュアやコスプレ関連のユーザーから好反応を得て、サブカルチャー分野での需要を 確認できた。現在はホームセンター等で一般販売を行うほか、全国で手に取ってもら える機会を増やすことを心がけており、JEPOでも実際の塗装物とともに展示を行った。

#### 海外への挑戦

JEPOを契機に、JETRO(日本貿易振興機構)と連携した取組を開始した。海外では アニメやマンガなどジャパンカルチャーの広がりが見られる中、アジアをはじめ北米 や欧州にも販路を拡大したいと考えている。各国の製品規制など課題はあるが、「ウ レヒーロー」の特性を生かし、多くの人に手に取ってもらえるよう挑戦を続けていき たい。



斎藤塗料株式会社 菅 彰浩さん



「ウレヒーロー」により塗装した刀剣 (Japan Expo Paris in Osakaにて展示)

# 【参考】Japan Expo Paris in Osaka (JEPO) 出展者の声

# 株式会社山田念珠堂

所在地:大阪市天王寺区東高津町6-13 HP:https://www.nenju.co.jp/

#### 万博への参加がもたらした意義

当社がJEPOへの出展を決意した理由は、世界中の人々が集まる万博という舞台で自社製品をPRできることだった。構想段階にあった世界三大宗教(仏教・イスラム教・キリスト教)の御念珠を披露でき、JEPOは理想的な発表の場となった。また、今後何十年も「万博に出展した企業」と言えることは、当社にとって大きな価値である。

#### 念珠を使った海外展開

今回の出展では、既存の仏教用数珠に加え、「世界平和の祈り」をテーマに世界三大宗教の御念珠を展示。イスラム教やキリスト教関係者の監修を受け、新商品を開発した。「宗教が違っても祈る心は同じ」という想いを込めた御念珠は、万博という国際的な舞台にふさわしいものであった。

BtoCイベントへの出展は初めてだったが、ブースには多くの来場者が訪れ、念珠を通じて世界平和への願いを発信できたことは大きな成果となった。また、テレビで取り上げられたことにより、今後の海外展開への足がかりにもなった。

#### 今後の展望

JEPO出展は、当社にとって「祈り」をテーマに世界へ挑戦する第一歩となった。 世界ではイスラム教徒やキリスト教徒が人口の大きな割合を占める。1861年の創業 以来培ってきたMade in Japanの品質を強みに、各宗教に受け継がれてきた「祈り」 に寄り添う商品を展開し、今後は世界市場へ挑戦していきたい。





左から、株式会社山田念珠堂 山田 弘樹さん、桝田 豊さん 左から、念珠(仏教)、タスビーフ(イスラム教)、コンボスキーニ(キリスト教) (Japan Expo Paris in Osakaで展示)

# サクラテック株式会社

所在地:大阪府東大阪市川田3-10-7 HP: https://www.sakura-tech.co.jp/

#### 万博への参加がもたらした意義

当社はJEPOに出展し、万博という世界的な舞台に立つ貴重な機会を得た。開幕直後から万博に関与できたことは、会社にとって大きな意味を持つ。

金属ワイヤーを扱う当社にとって一般消費者が参加するイベントへの出展は初めてであり、さらにメディア取材を受けたことが社内に大きな達成感をもたらした。

#### ものづくりの魅力を伝える工夫

会場ではワイヤーアートの作品展示や販売に加え、ワークショップを実施。社内研修で培ったノウハウを活用し、来場者に「ものづくりの楽しさ」を体験してもらうことができた。多様な客層と直接コミュニケーションを取れたことも、通常業務では得られない貴重な経験である。

#### 課題と学び、次への布石

今回の出展を通じて多くの学びがあった。ブースへの関心を持つ方との接点づくりやターゲット層の設定など、改善すべき点が明確になった。また、幅広い客層への的確なアプローチの難しさも痛感した。こうした反省点は、今後の出展に向けた大きな財産となる。

#### 未来への挑戦

「万博への関与を契機に、日本のものづくりを世界に届けたい」その想いを胸に、当社の挑戦は続く。PR戦略を磨き、また企業間連携を深めながら、ワイヤー素材の価値を世界に発信していきたい。



右から、サクラテック株式会社 大橋 翔太さん、中村 貴広さん



同社の技術を駆使したワイヤーアート (Japan Expo Paris in Osakaで展示・販売)

# 9関西ものづくり新撰2025 事業化支援

# 取組概要

く関西ものづくり新撰とは>

販路開拓に意欲のある関西のものづくり中小企業が独自に開発した製品・技術等のビジネス拡大を支援する 取組み。

現在の日本や世界が抱える社会課題等の解決に資する製品・技術等を選定。

#### 〈取組概要〉

「関西ものづくり新撰2025」選定企業と共に、大阪・関西万博会場内「TEAM EXPOパビリオン」に参加。選定分野である【生産性向上・省力化】 【GX・安心安全】【健康社会・働き方改革】の各テーマに応じて、選定企業がそれぞれの分野で出展した。

世界中の来場者に対し、社会課題の解決に資する関西のものづくり中小企業の優れた製品・技術に触れていただくことで、様々な形の共創が生まれ、選定された製品・技術等の情報発信および知名度向上を図った。

実施主体 近畿経済産業局

実施期間 2025年8月19~21日



担当:近畿経済産業局 産業技術課

電話:06-6966-6017

場所:TEAMEXPOパビリオン









# <u>タイムライン</u>

年度	主な取組	
2024	関西ものづくり新撰2025 企業募集〜選定・表彰	
2025	関西ものづくり新撰2025 TEAMEXPOパビリオン参加	

# 主な成果

通常では接点を持ちにくい多様なエンドユーザーに対し、参加企業の製品・技術に直接触れる機会を創出。 これにより、来場者等との対話や意見交換を通じて新たなビジネスの可能性や協業のきっかけが生まれ、参加企業にとって今後の製品・技術開発や販路開拓を進める上で有益な成果となった。

【イベント来場者】約2,000名(3日間計)

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

本事業を契機として、選定企業が有する優れた製品・技術の更なる事業化を促進するため、今後も継続的な支援を実施している。併せて、次回ものづくり新撰選定に向けた取組を進めている。

# **10 Global Startup EXPO 2025**

# 取組概要

国内外で大きな成長を実現するスタートアップを創出するためには、海外展開の促進と、海外からの資金・ 人材の呼び込みなどを通じたスタートアップ・エコシステム全体のグローバル化が重要。

特に「ディープテック・スタートアップ」は、革新的な技術により国際社会の多様で困難な課題解決に貢献 し得る存在であり、新たな企業・産業の創出を通じて我が国経済の成長を牽引するポテンシャルを持つ。また、 関西地域はディープテック領域における世界トップクラスの大学や研究機関、高い技術力を持つグローバル企 業が集積し、イノベーションを生み出す基盤を有している。

これらを踏まえ、大阪・関西万博において「Shaping the Future with Startups - Co-creation to Break Through Global Challenges -」をテーマに、ディープテック・スタートアップの支援と、我が国への海外の資金・人材の呼び込み強化等を主な目的としたグローバルイベント「Global Startup EXPO 2025」を開催。

# 実施主体

経済産業省、近畿経済産業局、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)、 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

実施期間 2025年9月17日、18日

担当:近畿経済産業局 創業・経営支援課

電話:06-6966-6014







37のセッションを実施し、多くの参加者が聴講。





出展ブース

石破内閣総理大臣(当時)ご挨拶

### タイムライン

年度	主な取組
2023	「2025年大阪・関西万博アクションプランver.5」掲載 「GSE機運醸成検討会議」開催(~2025)
2024	GSEプレイベント「Startup Horizon 2024」開催
2025	「Global Startup EXPO 2025」開催

# 主な成果

石破総理(当時)や岸田元総理をはじめとする政府関係者に加え、著名な国内外のVCらがセッションに登壇。海外 VCからは、日本のエコシステムへの期待や、今後の日本への投資の意向などを表明。

また、国内外145社(21ヶ国)がブース出展、118社がピッチを行うなど、今後の事業の成長に必要なネットワーキングにも大きく貢献。会場周辺では42のサイドイベントが開催された。

【参加者数:9,560人 マッチング件数:1,194件 来場報道関係者:44社・117名】

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

本イベントの成果を活かし、関西におけるディープテックのポテンシャルをPRしていくとともに、グローバルに事業を展開するスタートアップを関係機関とともに支援していく。

# ⑪知財ビジネスアイデア学生コンテスト最終審査会の開催

(特許庁「明日を変える知財のチカラ」 ステージイベントへの出展)

# 取組概要

2018年度以降開催している「知財ビジネスアイデア学生コンテスト」について、万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を募集テーマに設定し、募集地域を関西圏から全国に拡大。学生が発想力や企画力をもとに、知的財産を活用した新たなアイデアを提案するコンテストとして開催した。

特許庁の万博催事である「明日を変える知財のチカラ」のステージイベントの一環として最終審査会を実施し、全国133チームから選出された12チームがビジネスアイデアを発表。最優秀賞(近畿経済産業局長賞)などを決定・表彰した。

本事業を通じて、全国の学生にビジネスの面白さや知的財産の重要性を伝え、知財を活用した新しいビジネスモデルの創出を促すことを目指した。

実施主体 近畿経済産業局

実施期間 2025年10月4日 最終審査会

担当:近畿経済産業局 知的財産室

電話:06-6966-6016









# タイムライン

年度	主な取組
2024	募集地域を関西圏から全国に広げて開催 (38チームがエントリー)
2025	1月~: 学校関係者向けコンテスト開催の案内及びエントリー促進活動を開始 3月~6月: エントリーチームを募集(133チームがエントリー) 10月4日: 最終審査会を開催

# 主な成果

エントリーした133チームに対し、知財に関する学習機会と専門家によるフィードバックを提供し、アイデアの質を高める支援を実施。

最終審査会では、磨き上げたビジネスアイデアを国内外の来場者に発信し、知財を活用した新しいビジネスの可能性を広く示した。

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

万博での開催を契機に、全国規模のコンテストとして大阪で継続開催し、知的財産を活用したアイデア創出を通じて、次世代の起業家育成とイノベーション創出を促進することを目指す。 40

# ①サーキュラーエコノミー実現に向けた取組

# - Rethink Designプロジェクト-

# 取組概要

Rethink Designプロジェクトでは、サーキュラーエコノミー(CE)へのビジネス移行を支える考え方として、モノの使い方・捉え方に対する価値転換と価値創造を「Rethink Design」と銘打ち、CE実践者のコミュニティ形成による新たなビジネス創出に取り組んでいる。

大阪・関西万博会場内(EXPOメッセ「WASSE」)では、本プロジェクトの一環として、経済産業省主催イベント「サーキュラーエコノミー研究所」と連携した体験型催事「じつは、こんなものからできてんねんフェス」を開催。CEに挑む製造事業者による協力のもと、廃材を活用したものづくり体験や、参加者が明日からできる行動を宣言する企画を実施し、幅広い世代の消費者が楽しみながらCEの重要性を学び、日常の生活でCEを意識するきっかけを提供した。

本プロジェクトを通じ、サプライチェーンの各段階に関わる企業・消費者等がものの使い方や捨て方を見直し実践することで、関西から「Rethink」が当たり前になるCEの実現を目指す。

実施主体 近畿経済産業局

実施期間 2025年9月24日

担当:近畿経済産業局 環境・資源循環経済課

電話:06-6966-6018









催事当日の様子

# <u>タイムライン</u>

年度	主な取組
2023	CEへのビジネス移行を支える考え方「Rethink Design」の提唱
	PR冊子「Rethink Designers Report 2024」を公表
2024	オープンセミナー「Rethink Design Forum」開催 実践者交流会「Rethink Design Meetup」 開催
	PR冊子「Rethink Design Report 2025」を公表
2025	CE啓発イベント「じつは、こんなものからできてんねん フェス〜Rethink Design Expo〜」開催

# 主な成果

参加者からは、「捨てる前に他の使い道を考えるようにする」など、新たな気づきや明日から実践できる消費行動を宣言する多くの声が寄せられ、CEに関する参加者の意識・行動の変容を確認できた。 【イベント来場者】約300人 ※「サーキュラーエコノミー研究所」 58,723人 (9/23~9/29)

# 万博終了後の取組(プロジェクトの方向性)

本プロジェクトの推進によりCE実践者のコミュニティ拡充を図り、関西地域のCE関連ビジネスの創出・拡大に向けた取組を支援する。 41